

(名簿 No.8)ニジェール研修員 Mr.MOUSSA Abdou Moumouni

カントリーレポート

- 位置：ニジェール共和国はアフリカ西部に位置する。
- 面積：1,276,000km²
- 乾燥地：ニジェールは乾燥地に属する国。サハラ砂漠(北部)、テネレ砂漠(東部)
- 公用語と独立年：フランス語、1960 年
- 首都と行政区分、宗教：ニアメイ、8 地域(添付地図参照)、主にイスラム教
- 人口：12,000,000 (2000 年推定)
- 主要産業：農業、畜産
- GDP：500 米ドル以下。国際援助に依存し、貿易収支は赤字。
- 降雨量：0～800mm(雨季3～4ヶ月、6月～9月。雨季以外は完全に乾燥した気候)
 - *農業地帯(agricultural beltは南部にあり、降雨量は300mm～800mm
国内穀物生産量の96%を生産。→このため、ニジェールでは食糧確保は天水が
規則正しく降ることに依存している。
- 水資源：
 - 1) 地表水資源は西部にあり、ニジェール川(国土を流れる全長550km、首都は左岸)の排水域にあたる。その他の地域には持続する水の流れがない。
 - 2) 地下水資源は非常に重要。20近くの堆積性(化石)帯水層がIullemeden およびChad 流域にある。現在、利用可能な貯水量は、農業・生活・工業用水の需要を総計しても余りあるが、深い地下水位が開発を妨げている。
また、これら帯水層は、涵養率が低いのが特徴。降水量に比べて蒸発量が非常に高いため。
- 水資源開発に関する問題点と対策：

人口増加および繰り返し発生する旱魃サイクルの問題を恒久的に食糧確保の観点から解決するために、私たちにあって持続可能な灌漑事業を採択し、これを実現するに十分な研修事業を実施することは必要かつ不可欠である。この事例は、北部のIrhazer 渓谷の開発事業に見られる。このプロジェクトはリビアからの資金援助を受けている。

(レポート記載内容外 和訳補足 - A2A3 フォーム記述より抜粋)

- 最終学歴：EMA I R (Agadez 市) 専攻：地質学テクニシャン 1981～1985
EN I (マリ国立工科大) 専攻：水文地質学エンジニア 1991～1997
- 外国での研修参加経歴：

フランス アピニヨン U.A.P.V Isotopic Studies (1999 年 10 月～2000 年 1 月)
- 連絡先： B.P.:257-NIAMEY-REPUBLIC OF NIGER
Tel: (00227) 72 38 89 Fax: (00227) 72 40 15
Email: koumoussa@yahoo.fr
- 現職：(2001 年～) 水資源局水資源地質学部の長
 - ・組織の役割：国内の全ての水資源のアセスメント
 - ・自身の職務内容：①水文地質学者として、地下水源の特定および研究調査。
②水文地質学部門の長として、地下水源の研究、開発、モニタリング 全ての業務の調整。
- この研修が研修員の仕事に帰国後どう役立つと考えるか：
 - ① 国情として、食糧確保のために地表・地下水資源の灌漑への活用重点を置かなければならない。この点について、この研修は帰国後の私の仕事に役立つ。
 - ② この研修は、私たちの技術職員の技術強化に役立つ。研修コースの名称は、私たちの国の実状とマッチしている。
- 帰国後研修員に期待される任務：地下水を穀物栽培に利用するプロジェクトに積極的に参画する事。